



苗木と支柱を紐で固定

## 川湯小学校開校100周年記念事業 児童たちがエゾヤマザクラの 苗木を植樹

今年度開校100周年を迎える川湯小学校（山館孝志校長）が5月12日、記念事業の一環として春の木育活動を同校で実施しました。

木育活動には児童22人と保護者3人が参加。はじめに、木育マイスターの萩原寛暢さんによる、サクラにまつわる木育授業が行われました。町の木としても知られているサクラの開花時期や種類数などについて、3択クイズを交えながら学びました。萩原さんは「木は二度生きたる」という言葉があり、伐採後にも人の役に立っている。サクラの木はスベスベした肌触りを活かし、椅子などの家具やスプーン・箸などの食器に加工されているほか、燻製チップとしても使用されていて、花のような香りが特徴」と説明。児童たちは、サクラの木工品の手触りとチップの香りを実際に体感し、「ツルツルで気持ちいい」、「いいにおい」とサクラの魅力を感じました。

サクラについて理解を深めた後、屋外へ移動し敷地内への植樹に取り掛かりました。今回植えたのはエゾヤマザクラの苗木13本。低、中、高学年のグループごとに協力し合いながら、肥料入れ、土かぶせ、支柱立てなどの作業を行いました。児童たちは「大きくなあれ」と声を出しながら、丁寧に苗木を植えました。



サクラについてクイズで学習



成長を願いながら植樹



鎌入れを行う齋藤代表取締役



徳永町長と近江屋議長による「穿初の儀」

複合型地域観光交流拠点施設

## 新築工事安全祈願祭を挙行

令和10年1月の供用開始を目指している複合型地域観光交流施設の、新築工事安全祈願祭が4月21日、中央1丁目の建設地で執り行われました。

この施設は、図書館、プール、温浴施設、カフェなどを備えた複合拠点で、建物は従来の基準よりエネルギー消費量を50%以上削減した「ZEB Ready（ゼブレディ）」の認証を受け、環境に配慮した町の新たなランドマークとしても期待されています。

祈願祭は、主体工事を担う岩田地崎建設㈱が主催し、町内外の関係者約50人が参加。施設設計・監理・運営を担う㈱フレッドの齋藤貴之代表取締役が「刈初（かりぞめ）の儀」を、徳永町長と近江屋町議会議長が「穿初（うがちぞめ）の儀」を、岩田地崎建設㈱の渡邊直樹取締役専務執行役員が「堀初（ほりぞめ）の儀」をそれぞれ行い、新築工事の安全を祈願しました。

式典の最後に発注者の徳永町長は「この施設は、地域経済が低迷する町の賑わいを取り戻すための重要な政策。無事故無災害で素晴らしい施設を造ってほしい。」と、施設の建設に対する思いを述べました。

5月に入り、現場では敷地外周の仮囲いが設置され、今後は建物の基礎を造る柱状改良工事など、順次工程が進められていく予定です。

町の話



CloseUp Topics

町の話



CloseUp Topics

## 誇れるまちを目指して てしかがえこまち推進協議会 総会を開催



徳永会長による挨拶

てしかがえこまち推進協議会（徳永哲雄会長）の総会が5月13日、町役場で開催されました。同協議会は、「誰もが自慢し誰もが誇れるまち」をテーマに、町民の皆さんが主体となり、各部会においてさまざまな活動を行っています。

総会には、会員や関係者ら約30人が参加し、昨年度の活動報告や収支決算、新年度予算案などが承認されたほか、各部長から今後の活動予定などが報告されました。

徳永会長は、「今年で協議会も19年目となり、長年続けてきた成果が実を結んできている。各部会長を中心に今年度もより良い観光地域づくりにつながる活動を期待している」と話していました。



各部会長による活動報告



入賞牛の写真撮影

## 弟子屈・標茶の選び抜かれた牛が集結 「イースタンスプリングショー」 を開催



チャンピオン候補が勢揃い

4月29日、町家畜共進会場（桜丘2丁目）にて、ホルスタイン種の春の品評会「第19回イースタンスプリングショー」が開催されました。

例年4月に開催される当品評会は、弟子屈町と標茶町、浜中町の酪農家が日頃から丹精込めて育てた乳牛を一室に集め、牛の体型や資質、歩様などを審査する催しです。今年は町内から3戸14頭が出品され、飼養管理技術や改良成果が高く評価された牛が上位入賞を果たしました。品評会を通して、生産者同士の交流と技術研鑽、地域酪農のさらなる発展につながる機会となりました。

6月7日(日)には「町共進会」の開催も予定されています。町内の子牛から経産牛までが集結し、日頃の飼養管理技術や改良成果が披露されることとなっており、地域酪農の活性化と生産者同士の交流の場として期待されます。